

ごあいさつ 令和3年7月

コロナウイルスの影響で一年延期されていた東京オリンピック・パラリンピックの開催が間近に迫ってきました。しかし、無観客での開催となり、異例尽くしの大会となりそうです。

異例といえば、メジャーリーグの大谷翔平選手は、「野球の神様」と称されるベブ・ルース以来の「二刀流」選手として、唯一無二の活躍をみせ、日米でセンセーショナルな存在となっています。

「今日もまた打ったのか！」と大谷選手の活躍を目にするのが毎日の楽しみです。日ハム時代から注目を集める選手でしたが、海外に出て最高峰の舞台で(メジャーの常識や歴史を変えるぐらいの!)活躍をしている彼の姿に、多くの人達がエネルギーをもらっています。私も間違いなく、その一人です。

大谷選手の魅力は彼のずば抜けた能力だけではありません。言動からにじみ出る人柄の良さや「カッコよさ」などが彼の魅力としてよく挙げられますが、私は彼の「考え方」に感心します。日本でもアメリカでも、プロの世界で投手と打者の二刀流は「非常識」です。大谷選手の二刀流への挑戦に対して、両国における大半の専門家は当初、「無謀だ」「やめた方がいい。どちらかに専念するべきだ」とコメントしていました。しかし、彼はどちらの国でも自分の信念を貫きとおし、歴史を変えるほどの活躍をしています。

「両方やりたい!」「両方やることが自分の持ち味だ」という信念を持ち続け、これからも更に活躍してくれることを期待したいと思います。

理事長・園長 伊原 鎮(いはら やすし)